

保護者の皆様からのご意見と本校としての回答

分類	意見番号	ご意見	本校としての回答
下校について	1	5時間目は下校時刻が20分早まるが、放課後に少しの間、子どもを学校に預けることはできないか？	<p>下校時刻が早まり、皆様にはご負担をおかけし、申し訳ございません。特に低学年において、一人で留守番させることが不安である等、心配される声がありました。</p> <p>低学年にお子様をもつ保護者様にとって安心できる環境を作るため、どうしても都合がつかない日は、個別にご相談ください。お子様を一時的にお預かりします。なお、この場合は、<u>可能な限り15時まで</u>に学校までお迎えをお願いします。</p>
	2	低学年が高学年の下校と一緒に帰ることはできないか？	<p>6時間目で終わる高学年等と一緒に下校させることについては、個々の把握やその待機する児童に教員が常時、必要になること、低学年の下校の人数が減ること学年下校に支障が出ることから、制度化することはできません。しかし、上記と同様に、どうしても場合は、個別にご相談ください。</p>
	3	下校の際、どうしても仕事の都合のつかない場合は、個別対応されるということだが、そうすると教員の誰かが子どもにつくことになり、学年担任制による放課後の情報共有に影響が出るのでは？	<p>できる限り児童の情報共有に影響ができない体制を考えていきます。しかしながら、次年度は学級数が2学級減ること教員数も2名減り、今年度よりも少ない教員数で学校運営を維持していかなければなりません。そこで上記の通り、お子様を一時的にお預かりするのは、どうしても都合のつかない場合の個別対応とし、この場合は15時までの迎えをお願いしているところです。</p>
	4	下校時刻が早まることについて、学童や長塚地域総合センターとの連携は取れているのか？	<p>愛荘町教育委員会と子ども支援課との調整はできており、町が運営している秦荘西学童保育所と愛荘町スポーツ学童保育所については対応していただけます。</p> <p>私立の学童保育所をご利用されている場合は、学校においてもお迎えの際に、下校時刻の変更を伝えていますが、保護者の方からもご連絡をお願いします。</p> <p>長塚地域総合センターで開講している習字教室、珠算教室、自主活動学級については、各教室の終了時刻を今年度と同じにさせていただけることになりました。</p>

学年担任制について	5	学年担任制の考えは理解したが、通知表や家庭訪問は実際、誰が担当されるのか？	家庭訪問や個別懇談会は、原則、その週の担当教員が担当します。これまでの学級担任制とは異なり、2つの学級を2人で担任しているイメージです。その分、放課後に両クラスの子どもたちの様子を担任団でしっかり共有していきます。それぞれの週の担任については学年通信でお知らせします。相談したいことがありましたら、その担当週の教員にご相談ください。また、この制度は児童、保護者にとって相談のチャンネルが増えることもメリットです。担当週の担任以外にも、学年の担任や学年部部長等、様々な教員にも気軽にお声がけください。
	6	学年担任制の導入より、給食や掃除などのシステムを統一することは子どもの安心につながると思うが、掲示物などの教室環境をそろえることでどれくらいの教育的な効果があるのか？	数値的な効果については持ち合わせていませんが、いつ、どの教員がどこの教室へいっても、同じ場所に同じものがあれば指導はしやすくなり、児童の安心にもつながると考えます。これは学年担任制を実施している学校への視察で学びました。また、自律的な児童を育てるためにも、廊下にある掲示板で予定を確認する等、自ら考え行動できる教育環境を整えていきたいと考えています。
40分授業について	7	45分の授業をなぜ40分にするのか教えてほしい。	「時間」という資源を有効に活用し、児童にとって「学びの午前」「活動の午後」というメリハリのある教育課程にするための変更です。45分授業と比較すると、 $(45 - 40) \times 5$ コマの25分間、授業時間が少なくなりますが、その分、午後からの秦西タイム(20分)で午前の学習内容の補充学習に取り組むため、1日あたり5分間だけ授業時間が短くなります。しかし、家庭訪問や個別懇談日等、半日で終わる時も5時間授業が行えるため、年間授業時数は国の定める標準授業時数よりどの学年も50時間以上多く、ゆとりある授業時数が確保できています。
	8	40分授業に向けて、今、どんなことに取り組まれているのか？	45分間の授業では、「めあての提示→自力解決→全体交流→まとめ→ふりかえり」の流れが一般的です。しかし、既習事項への理解が不十分な場合、自力解決時にあきらめてしまう児童が出てきてしまい、どうすれば5分短縮した中でみんなが参加し考える授業が実践できるのか検討をしてきました。その結果、授業前半に学習のポイントを教師が押さえ、後半にそのポイントを活用しながら考える本校独自の授業展開を開発・研究中です。その成果を40分授業でも活用していきます。
	9	中学校は50分授業であり、それに対応できるのか心配だ。	中学校の授業への対応ですが、6時間目は45分授業を維持しています。また、秦西タイムと6時間目を組み合わせることで65分の活動も実施できます。また6年生の3学期には50分授業体験をする等、柔軟に対応できるよう努めてまいります。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">視察先の様子</p>	<p>10</p>	<p>視察した学校での子どもの様子はどうかだったのか知りたい。</p>	<p>今回の改革をするに当たり、「40分午前5時間制」を採用している東京都目黒区と米原市の小学校、「40分5時間制」と「学年担任制」を同時に実施している兵庫県川西市の小学校へ視察に行きました。その結果、いずれの学校も児童が短いスパンの中で集中して授業を受けていた印象をもちました。先生方の話を聞いても、「以前より授業に集中できる子が増えた。」「日課の変更は教員より子どもたちの方が慣れるのは早かった。」など、肯定的な話を聞くことができました。学年担任制については、同じスタンスで指導できる体制と環境が必要であることを学びました。そこで現在、すべての教室環境をそろえる準備を進めています。また、生活に関する決まり事をすべての児童と教員とで共通理解できるよう、学校生活全般の約束事をまとめた「秦西スタンダード」も作成しています。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">自律とは？</p>	<p>11</p>	<p>新しい学校教育目標に「自律」というキーワードがあるが、その意味を教えてほしい。また、家庭でできることがあれば教えてほしい。</p>	<p>本校では「自律」を、「目的や状況に応じて自らの考えを決定し、責任ある行動をとることができる姿」と考えます。「予測のできない社会」と言われる現代社会に出ていく子どもたち。社会に出るまでを逆算すると、今のうちにそんな児童を本校職員が同じ目線で育てていくことが大切です。上記のような子どもたちを育てるために、まずは学校や家庭において物事を自分事で考える習慣が大切です。もちろん年齢にもよりますが、お子様が何かにつまづいている時、困り事のすべてを大人が解決しては子どもが成長する機会を失います。「どうしたの？」（状況を客観視させる）「何を困っているの？」（困りごとを自分で分析させる）「何をしてほしいの？」（困りごとを依頼する）と3つの問い返しで自律的な子が育つよう、学校と家庭とで共育（教育）できれば幸いです。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">町の今後</p>	<p>12</p>	<p>愛荘町教育委員会の目黒区視察に本校教頭も同行したということだが、今後、秦荘西小学校のような学校改革は、町全体にも広がっていくのか？</p>	<p>目黒区には、「40分授業午前5時間制」の視察として行きました。メリハリのある日程や教員の働き方改革の面からも、この制度に愛荘町教育委員会は注目されており、次年度の「40分授業午前5時間制」は、町のモデル校として実施するものです。また、「教科担任制」は、国が示す教育施策の1つであり、愛荘町教育委員会としてもこの2つは、次年度の本校の成果や課題を踏まえ、今後、町内に広げていくかどうかを検討される予定です。折しも先日、文部科学省でも授業時間を5分短縮することを検討しているとの報道がありました。次年度から取り組む40分授業が、今後、国の方向性になる可能性もあります。「学年担任制」は、今後を見越した本校独自の取組であり、上記の「教科担任制」「40分授業午前5時間制」をセットとして次年度実施します。</p> <p>今回の本校における改革が町内各小学校にとってよきモデルになるよう、努力していきます。</p>